

## I. 導入

おはようございます。今から約2,800年前、主はヨナにこのように命じられました。(ヨナ1:2a) 「さあ、大いなる都ニネベに行ってこれに呼びかけよ。」しかし、ヨナはそれに従いませんでした。(ヨナ1:3a) 「しかしヨナは主から逃れようとして出発し、タルシシュに向かった。」すると、大嵐が起こって、船は沈没の危機にさらされました。ヨナに原因のあることを船乗りが突き止めると、ヨナはそのことを認め、海に自分を放り込むように言いました。(ヨナ2:1) 「さて、主は巨大な魚に命じて、ヨナを呑み込ませられた。ヨナは三日三晩魚の腹の中にいた。」



それから約800年後、イエスは律法学者とファリサイ派の人々におっしゃいました。(マタイ12:40) 「つまり、ヨナが三日三晩、大魚の腹の中にいたように、人の子も三日三晩、大地の中になる。」ところで、先週の礼拝が終わってから、「金曜日に十字架にかけられて、日曜に復活するまで3日間というのはどういう計算ですか」とある人から質問されました。



だいたい二通りの答えに分かれるのですが、まず、イエスが十字架にかけられたのが実は金曜ではなく、水曜か木曜だったという言い分です。イエスが十字架にかけられた翌日は安息日だったと聖書は語りますが、矛盾はありません。というのも、安息日というのは休みの日全体を指すこともあり、ユダヤ教の暦には、土曜以外の曜日にあたる安息日もあります。次に、金曜の夜、土曜日、日曜の朝など、3日間にまたがっていれば、それをユダヤでは慣用表現として三日三晩と呼ぶという説明もあります。

先週話したように、ヨナの人生とイエスの働きに共通点を見出すよう、イエスは勧めておられます。先週、いくつもの類似点を見て、ヨナの人生はイエスの働きを預言的に示す型であると結論付けました。とくに、ヨナの話に描かれた死と復活は、イエスの十字架と復活を指し示します。

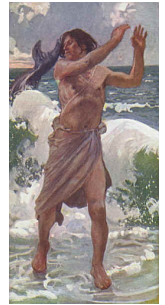
こういうわけで、ヨナの話と福音書を織り交ぜた絵画を描く画家もいます。ここに、例をふたつ挙げましょう。左は、アメリカ、ミズーリ州のセントルイスにあるチャーチ・オブ・アヌンジアタのステンドグラスです。右は、中世ドイツの写本にある絵画です。どちらにも、復活して墓から出てこられたイエスと、大魚から出てくるヨナが描かれています。



では、ヨナ書2:2-11を読みましょう。

## II. 聖書朗読 (ヨナ書2:2-11、新共同訳)

2:2 ヨナは魚の腹の中から自分の神、主に祈りをささげて、  
2:3 言った。苦難の中で、わたしが叫ぶと／主は答えてくださった。陰府の底から、助けを求めると／わたしの声を聞いてくださった。  
2:4 あなたは、わたしを深い海に投げ込まれた。潮の流れがわたしを巻き込み／波また波がわたしの上を越えて行く。  
2:5 わたしは思った／あなたの御前から追放されたのだと。生きて再び聖なる神殿を見ることであろうかと。  
2:6 大水がわたしを襲って喉に達する。深淵に呑み込まれ、水草が頭に絡みつく。  
2:7 わたしは山々の基まで、地の底まで沈み／地はわたしの上に永久に扉を閉ざす。しかし、わが神、主よ／あなたは命を／滅びの穴から引き上げてくださった。  
2:8 息絶えようとするとき／わたしは主の御名を唱えた。わたしの祈りがあなたに届き／聖なる神殿に達した。  
2:9 偽りの神々に従う者たちが／忠節を捨て去ろうとも  
2:10 わたしは感謝の声をあげ／いけにえをささげて、誓ったことを果たそう。救いは、主にこそある。  
2:11 主が命じられると、魚はヨナを陸地に吐き出した。



### III. 教え

主はすべての上におられる主です。空の鳥、森の獣、海の魚など、大自然のすべてがこのお方に従います。人類だけが頑固で反抗的な生物です。それでも主は私たちに忍耐してくださいます。ヨナは神に従いませんでしたが、神はヨナをお見捨てにはなりません。神の恵みがヨナを追い求め、従順になれるようにと彼を立ち直らせてくださいました。神は用意した大魚にヨナを飲み込ませ、不従順だった預言者を三日後無事に陸地へと帰らせてくださいました。この魚は、神の摂理を見事に現した例です。

摂理を辞書で調べると、「万象を支配している理法。この世の出来事がすべて神の予見と配慮に従って起こるとされること。」とあります。神は宇宙全体を統べ治める主権者です。同時に、神は愛です。ご自身の被造物やすべてのできごとに積極的に心を配られるお方です。神は私たちを愛しておられるので、あらゆる方法で私たちの必要を満たし、祝福してくださいます。人生で出会う良いものや喜ばしい体験はすべて、神の摂理によるものです。

摂理という単語は聖書ではあまり登場しません。訳によっては一度も出てこないものもあります。それでもなお、神の摂理は聖書のいたるところに現されています。いくつかその例を挙げてみましょう。

ヨブ10:12 「わたしに命と恵みを約束し／あなたの加護によって／わたしの霊は保たれていました。」

詩篇3:6 「身を横たえて眠り／わたしはまた、目覚めます。主が支えていてくださいます。」

詩篇104:14-15 「104:14 家畜のためには牧草を茂らせ／地から糧を引き出そうと働く人間のために／さまざまな草木を生えさせられる。 104:15 ぶどう酒は人の心を喜ばせ、油は顔を輝かせ／パンは人の心を支える。」

フィリピ1:6「あなたがたの中で善い業を始められた方が、キリスト・イエスの日までに、その業を成し遂げてくださると、わたしは確信しています。」

神は私たちに命を与え、親切を施し、守り、支え、私たちの内に始められた良い働きを完成させてくださいます。時には、私たちに試練をお与えになることもあります。それが必要なこともあるからです。いつくしみ深い神の摂理は、驚くほどすばらしいものです。その気になって目を向ければ、私たちの周りには神の摂理が満ちています。ヨナが魚から生きて出てきたことは、通常ではあり得ない不思議な奇跡です。しかし、天地を造られた創造主なる神にとって、これは難しいことではありません。神の摂理の一例に過ぎないのです。

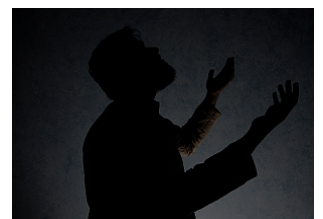


ヨナは魚に飲み込まれて、やり直しのチャンスを得ました。こんなことになって、さらに反抗心を募らせ、怒りのこぶしを振るい上げることもできたでしょう。または絶望して、生きることをあきらめるという選択もあったでしょう。ヨナは三日間も魚の腹の中にいたのですから、そういう選択肢もすでに試したのかもしれない。何日目のことかはわかりませんが、ヨナはとうとう神に心を向けました。ヨナ2:2「ヨナは魚の腹の中から自分の神、主に祈りをささげて、」

ヨナ書2章のほとんどは、ヨナの祈りです。それは、詩の形で綴られています。詩篇の多くは祈りです。詩篇に沿って祈る、つまり、詩篇をゆっくりと復唱しながら自分自身の祈りとしていくことは、信仰を育む訓練となります。この方法で多くの人が祝福を受けてきました。私自身も、詩篇を祈ることで、大きな祝福や慰めを得た経験があります。4世紀の教会指導者アタナシオスは言いました。「詩篇は聖書の中でも特別な存在である。みことばの大部分は私たちに語りかけるが、詩篇は私たちに代わって語ってくれる。」詩篇にある数々の詩的な比喩表現や反復法は、心の底からの深い叫びを時宜にかなって代弁してくれます。皆さんにもぜひおすすめします。詩篇をゆっくり読んだり、暗唱したりして、詩篇を自分の祈りにしてください。全篇にあてはまるとは言いませんが、多くの詩篇から祝福を受けるでしょう。

ヨナの祈りの詩を詳しく見てみましょう。

ヨナ2:3「言った。苦難の中で、わたしが叫ぶと／主は答えてくださった。陰府の底から、助けを求めると／わたしの声を聞いてくださった。」私たちが心から主に向かって叫ぶと、主はその声を聞いて、答えてくださいます。ヨナは、海の底で魚の腹の中に葬られて死んだも同然と思いましたが、神はその叫びを聞いてくださいました。



ヨナ2:4「あなたは、わたしを深い海に投げ込まれた。潮の流れがわたしを巻き込み／波また波がわたしの上を越えて行く。」ヨナは自分を海に投げ込むよう船乗りたちに言い、船乗りたちはそのとおりにしました。けれども、自分の命は主の御手の中にあることをヨナは知っていました。船乗りたちは神が用いた器に過ぎません。彼を海に投げ込まれたのは主ご自身であることを、ヨナは理解していました。結局のところ、すべては主の御手の中にあるのです。

ヨナ2:5「わたしは思った／あなたの御前から追放されたのだと。生きて再び聖なる神殿を見

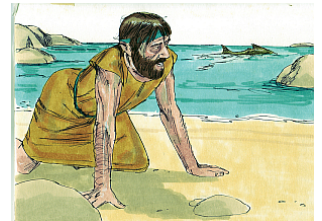


ることがあろうかと。」ヨナは、自分の罪がこの状況をもたらしたとわかっていました。それでもここには、いつの日か再びエルサレムの神殿に帰って主を礼拝したいというヨナの希望が表れています。

ヨナ2:8「息絶えようとするとき／わたしは主の御名を唱えた。わたしの祈りがあなたに届き／聖なる神殿に達した。」死に瀕して、ヨナは主を思い出し、主に祈りました。彼の祈りは聖なる主の神殿に達し、主に聞き届けられました。ここでヨナは天国を指して主の神殿と言っています。イスラエルの民は、エルサレムの神殿が天国にある真の神殿を表すしるしであることを知っていました。

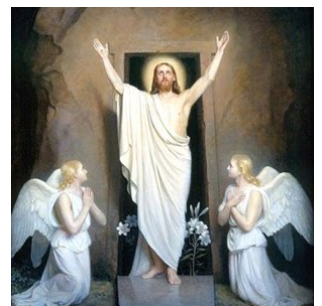
ヨナ2:9-10「むなしい偶像に心を留める者は、自分への恵みを捨てます。 2:9 しかし、私は、感謝の声をあげて、あなたにいけにえをささげ、私の誓いを果たしましょう。救いは主のものです。」（新改訳）ヨナは、船乗りたちのことを考えていたのでしょうか。船乗りたちは、人の手によって作り出された何の力も持たない偽りの神に助けを求めました。一方、ヨナは全能の神、主に属する者であることをはっきりと語りました。船乗りたちが主に向かって祈ったのは、ヨナが海に投げ込まれてからですから、ヨナはそのことを知る由もありません。ヨナはここで、偶像を崇める者は自分への恵みを捨てると言っています。主はすべての人に救いの手を差し伸べられますが、多くの人はその恵みの賜物を受け入れずに背を向けます。しかし、船乗りたちは最終的に神を求めました。そのようにして悔い改めるなら、神はその祈りを聞いてくださり、再び恵みあわれみを施してくださいます。

ヨナの祈りを読むとき、彼が暗い魚の腹の中に閉じ込められていることを忘れてはいけません。そんな状況で、ヨナはいけにえをささげて感謝の声をあげると言います。そして、「救いは、主にこそある。」と宣言します。神のみが救いの力をお持ちであることを、ヨナは理解しました。そして時が満ち、主のお命じに従って、魚は悔い改めた預言者を陸地に吐き出しました。神の恵みあわれみによって、ヨナは海で死なずに救われました。ヨナは信じて救われたのです。



その800年後、神のご計画の時が満ちて、イエスは十字架上で死なれました。信じる者すべてに罪と死からの救いをもたらすためです。三日後、イエスは生きて墓から出てこられました。ペトロとヨハネは、男を癒し、イエスのことを語ったことで捕えられました。宗教指導者たちの前に引き出されたところ、ペトロは次のように真理を大胆に語りました。

使徒4:10-12「4:10 あなたがたもイスラエルの民全体も知っていただきたい。この人が良くなって、皆さんの前に立っているのは、あなたがたが十字架につけて殺し、神が死者の中から復活させられたあのナザレの人、イエス・キリストの名によるものです。4:11 この方こそ、／『あなたがた家を建てる者に捨てられたが、／隅の親石となった石』／です。4:12 ほかのだれによっても、救いは得られません。わたしたちが救われるべき名は、天下にこの名のほか、人間には与えられていないのです。」



救いは主からいただきます。ヨナはこのことを知っていたので、主の名を呼び求めて救われました。ペトロは3年間イエスとともに歩み、よみがえった主に会いました。私たちの主との出会いは

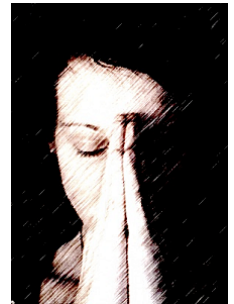
それほど直接的ではありませんが、ある意味でペトロよりも深い理解があります。完成した新約聖書が私たちにはあるからです。新約聖書は、主イエスを信じなければならないと明白に示します。主イエスが神の御子であり、御子なる神だからです。ペトロが言ったとおり、「ほかのだれによっても、救いは得られません。わたしたちが救われるべき名は、天下にこの名のほか、人間には与えられていないのです。」

#### IV. 結び

困ったことがあったり、大変な目に遭ったりしたら、主の名を呼び求めますか。祈るときには、信仰を告白し、感謝をささげていますか。ヨナと同じような状況にはならないかもしれませんが、主に仕えなさいと示されたら、主から逃げずに従いたいものです。同時に、ヨナのような祈りも身に付けたいと思います。

ヨナが感謝をささげる姿に、私自身の祈りについて課題を感じます。問題が解決したり、癒されたり、危険が去っていったときに感謝をささげるのは簡単ですが、ヨナは身の安全が確保されてから感謝の声をあげたではありませんでした。

ヨナはまだ魚の腹の中にいたときに、感謝の心をあらわす祈りをしました。皆さんは暗闇の中で祈ることがありますか。電気を消して暗いという意味ではなく、悩みが多すぎて暗闇のように感じる時に祈るという意味です。そんなときでも、感謝しますか。これは、私たち全員にとっての課題だと思います。困難なときでも、感謝できることはたくさんあるはずです。そのことを思い出して感謝すれば、私たちの心の持ち方が変わり、状況に関係なく喜びを感じられるようになるでしょう。感謝の心を育むことはたいへんな修練ですが、常に感謝することを実行すれば、それが習慣となり、大きな祝福をもたらします。



テサロニケ第一**5:16-18**をはじめとする多くのみことばから、感謝の心を育むことは神のみこころであることもわかります。「**5:16** いつも喜んでいなさい。**5:17** 絶えず祈りなさい。**5:18** どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。」ヨナはニネベに行くように命じられ、神の命令から逃げました。このみことばは、私たちが喜ぶこと、祈ること、感謝することが神のみこころだと教えます。みこころから逃げないでください。むしろ、まっすぐに向かっていき、神のみこころに沿って生きる祝福をあなたのものにしてください。

祈りましょう。

#### V. 祈り